

第19回まちcomiリサーチ 『地域防犯』に関する意識調査

ドリームエリア株式会社は、無料不審者情報配信ツール『まちcomiメール』を利用している保護者の方々を対象に、『地域で取り組む防犯』についてのアンケートを実施いたしました。

<調査概要>

調査期間	2008年4月24日(木)～2008年4月27日(日)
調査方法	URLを記載したメールから携帯サイト上のアンケートフォームへ回答
調査対象	『まちcomiメール』を利用した不審者情報を携帯で受信している保護者
有効回答数	7,644件

<質問項目>

1	お子様が実際に危険な目にあわれたことはありますか?
2	質問1で「はい」をお選びの方は、差支えない範囲でその内容をお書き下さい。
3	安全のためにお子様としている約束はありますか?
4	質問3で「はい」をお選びの方は、その内容をお書き下さい。
5	お住まいの地域での防犯対策について満足していますか?
6	質問5で「不安」をお選びの方にお聞きします。不審者から子供を守るためには、何が必要だと思いますか?
7	質問6で「その他」をお選びの方は、その内容をお書き下さい。
8	お子さんの性別を教えてください。
9	お子様の学年を教えてください。

質問1: お子様が実際に危険な目にあわれたことはありますか?

—7,644名中、1割弱の720名が実際に危険に遭遇した経験あり

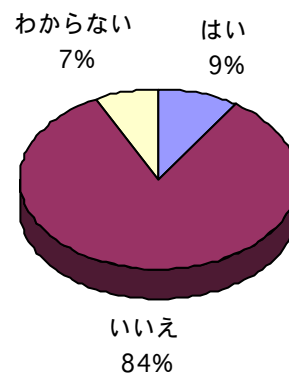
<集計結果>

「まちcomiメール」を利用している保護者、12万9,296名(2008年4月24日現在)を対象に、地域で取り組む防犯に関する保護者の意識調査を実施。うち、7,644名の保護者から回答をいただきました。

『まちcomi』サービスが2005年の春にスタートして3年、地域コミュニケーションを活性化させ「安全で快適な街づくり」のお手伝いをするを第一の目標に掲げて運営してまいりました。

この春にまた新たに多数ご入会いただき、改めて地域の安全という『まちcomi』の目指す方向を再確認すべく、今回調査させていただきました。

Q1: お子様が実際に危険な目にあわれたことはありますか?

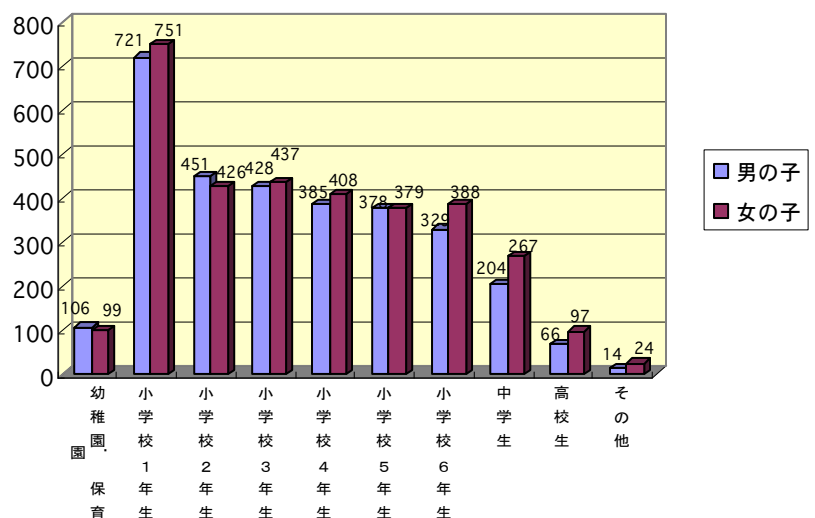


実際に危険な目にあわれたことのあるお子様は、約1割の9%(720名)という結果でした。

また「はい」とご回答いただいた方の、お子さんの年齢と学年を照らし合わせたものを、右のグラフに表示しました。【1-A参照】

グラフをみますと、体格に差が出てくる小学校6年生以上の、女子の数値が129名も多い212名という結果になり、被害件数の男女差が明確になってくるのがわかります。

Q1-A: 学年別被害 (男女比)



質問2:質問1で「はい」をお選びの方は、差支えない範囲でその内容をお書き下さい(自由記述)。

—身近な生活圏内でも危険は多い

質問1で実際にお子様が危険な目にあったことがあると回答した方に、その具体的な内容をうかがいました。その内容の一部をご紹介します。

「登校中に、公園のトイレへ連れて行かれそうになった(小学生／神奈川県)」

「娘がエレベータ内で不審者から下半身を露出された。(小学生／東京都)」

「中学生にからまれた。(小学生／神奈川県)」

「一年生同士の通学中に道路でふざけて居て車道に出てしまう事が何回かあります。今まで、一人で外、道路に出た事はありませんでした。(小学生／千葉県)」

「娘(7歳)と一緒に歩いている時、ふと気づいたら娘の耳元で「可愛いね可愛いね」と言いつきまとっているおじさんがいた。目付きがおかしかったし、私が娘の手を引いて小走りになっても付いて来たので抱いて走って逃げました。(小学生／福岡県)」

「子供の友達宅に子供のフルネームを言って、大人の男の低い声で電話があった。電話を受けた方はまるで脅迫電話のような怖い感じを受けたとのことで、実際には危害を受けるまでには至っていない。(小学生／静岡県)」

「家の玄関の鍵を自分で開けていると、知らない男が「お母さんは?いる?」とあたかも知り合いのように聞いてきたらしい。娘はとっさの判断で「中に居ますけど...」と言ったらいなくなったらしい。小学生低学年だったから、何かあったらと思ったらずっとした。(小学生／東京都)」

「マンション内のことですが、かくれんぼをしていた息子がいきなり頭を叩かれた事があった。(小学生／千葉県)」

「スーパーの菓子売場で中年の男性に背中を蹴られた。(小学生／茨城県)」

「スーパーに行っていて目を離した隙に(約5分くらいの間に)顔面を殴られ鼻血で顔面が血まみれになり前歯が折られていた。子供の話では、持っていた玩具を取られそうになって拒否をしたら、顔面を殴られたとのコト…。玩具は殴られた後に持って行かれた。(小学生／愛媛県)」

質問3:安全のためにお子様としている約束はありますか?

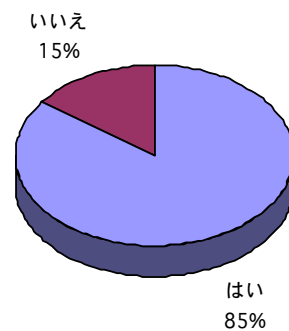
—8割以上が安全について親子で約束

<集計結果>

Q3：安全のためにお子様としている約束はありますか？

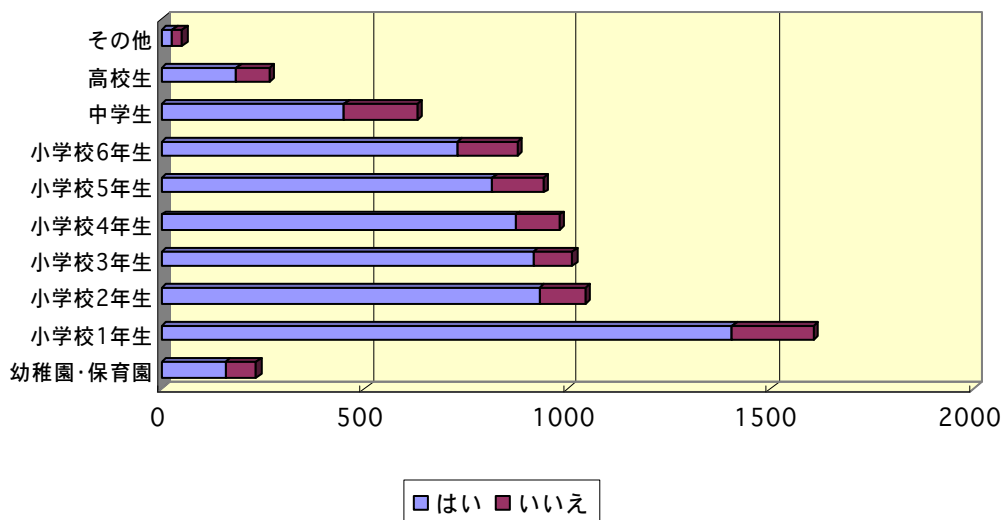
安全に関する約束をお子様としているか否かをうかがったところ、大多数の保護者が「はい」と回答。全体の85%である6,491名という結果でした。

「はい」とご回答いただいた方の、お子様の学年と照らし合わせたものを、下のグラフに表示しました。【3-A参照】



グラフをみますと、入学したばかりの小学1年生が、730名の6年生に比べて倍近く、また幼稚園・保育園の158名と比べても9倍の1,407名という結果になりました。保護者の目から最初に離れる小学校入学がひとつの意識付けのきっかけになっているのかもしれない。

3-A：安全のためにお子様としている約束はありますか？



質問4: 質問3で「はい」をお選びの方は、その内容をお書き下さい。

—基本は複数での行動、自宅においても留守番時は注意

質問3で、安全のためにお子様としている約束があると回答した方に、その具体的な内容をうかがいました。その内容の一部をご紹介します。

「知らない人には、ついていかない。危ない時は、大声をだす。逃げるなど。(小学生／神奈川県ほか)」

「通学路以外は、登下校しない。(小学生／佐賀県ほか)」

「下校の時は一人では帰らず、必ず友達と帰るように言ってます。(小学生／三重県ほか)」

「知らない人から「お母さんに頼まれたから」などと言われても信じないこと、インターホン・電話には出ないこと。(小学生／神奈川県ほか)」

「子ども110番の家の確認、行き先の確認、携帯電話を持たせている。(小学生／神奈川県)」

「ピンポンとなっても、インターホンには出ても決して鍵を開けない。(高校生／東京都)」

「危険を感じたらケータイで連絡する、もしくはケータイのGPSのボタンを押す。(小学生／千葉県ほか)」

「スーパーや公衆トイレには一人で入らない。(小学生／神奈川県)」

「エンジンをかけたまま止まっている車は迂回すること。(小学生／神奈川県ほか)」

「「いかのおすし」「おおだこポリス」など合唱している。(小学生／神奈川県ほか)」

【いかのおすし／おおだこポリスとは】

いかのおすし:

警視庁が作成した、子どもの防犯のための合い言葉です。[知らない人についていかない][他人の車にのらない]
[おおごえを出す][すぐ逃げる][何かあったらすぐしらせる]。

おおだこポリス:

子どもたちに防犯心得を分かりやすく身につけてもらうため、「お・お・だ・こ」から始まる4つの標語で神奈川県警が作成した啓発歌です。[おうちのひとにいってきます][おともだちとあそぼうね][だまされてついていかない][こわくなったら大きな声で]。

質問5:お住まいの地域での防犯対策について満足していますか?

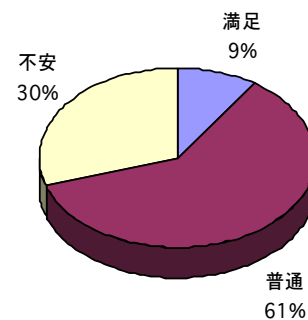
—「満足」は1割弱、普通以下が大多数

<集計結果>

現在お住まいの、地域での防犯対策について、どのくらい満足されているかをうかがいました。

その結果、「満足」とはっきり回答されている方は9%。「普通」「不安」で9割を占める結果となりました。

Q5: お住まいの地域での防犯対策について満足していますか?



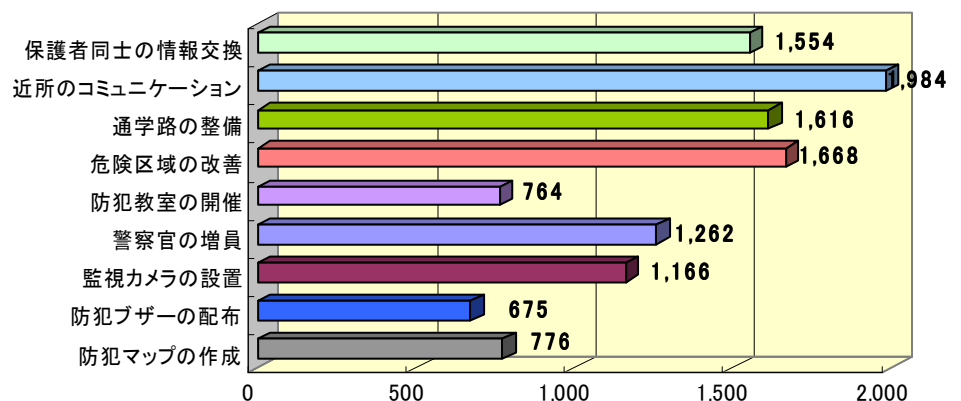
質問6:質問5で「不安」をお選びの方にお聞きします。不審者から子どもを守るためには、何が重要だと思いますか?(複数選択可)

—近所や保護者同士の交流が上位に

<集計結果>

不審者から子どもを守るために必要なものを10の選択肢から選んでいただいたところ、「近所のコミュニケーション」がトップ、次いで「危険区域の改善」「通学路の整備」「保護者同士の情報交換」と地域での取り組みが必要な対策が続きました。

Q6:「不安」をお選びの方にお聞きします。不審者から子どもを守るためには、何が重要だと思いますか?



質問7:質問6で「その他」をお選びの方は、その内容をお書き下さい。

— 周囲の大人たちが一体となって協力しあうことが必要

「常時集団下校の徹底。(小学生／福岡県)」

「子供達の安全や防犯に対して意見は言うが実行してくれる方が少なすぎる。(小学生／神奈川県)」

「学校では、何故子どもに携帯を持たせてはいけないのでしょうか？GPS携帯で子供の通学位置が確認できれば親は離れていても安心です。公衆電話の数が少なくなり、子供が連絡する事も不可能です。(小学校／千葉県)」

「一斉下校以外の日でも学年ごとで集団で帰らせるよう徹底した方が良いと思う。一斉下校のように、各学年で授業が終わったら運動場に集合させ、先生も曜日で把握してもらい、毎日集団で帰らせてほしい。何かあってからでは遅いし、何かあるとしたら下校時だとおもいます。(三重県)」

「親自身の意識改革が必要。自分たちがこどもの頃は安全だったという基準では甘いと思います。(小学生／神奈川県)」

「保護者と教員で構成するPTAだけでは限度がある。まず、PTAの枠を取り払って、地域全体の防犯への意識を高めて行く。子どものことは保護者がすればよいという町の意識を変えて行きたい。本家アメリカのPTAのように学校単位でなく、地域に、住民全体の問題と受け取ってもらえるように行政も改革を進めてほしい。(小学生／愛媛県)」

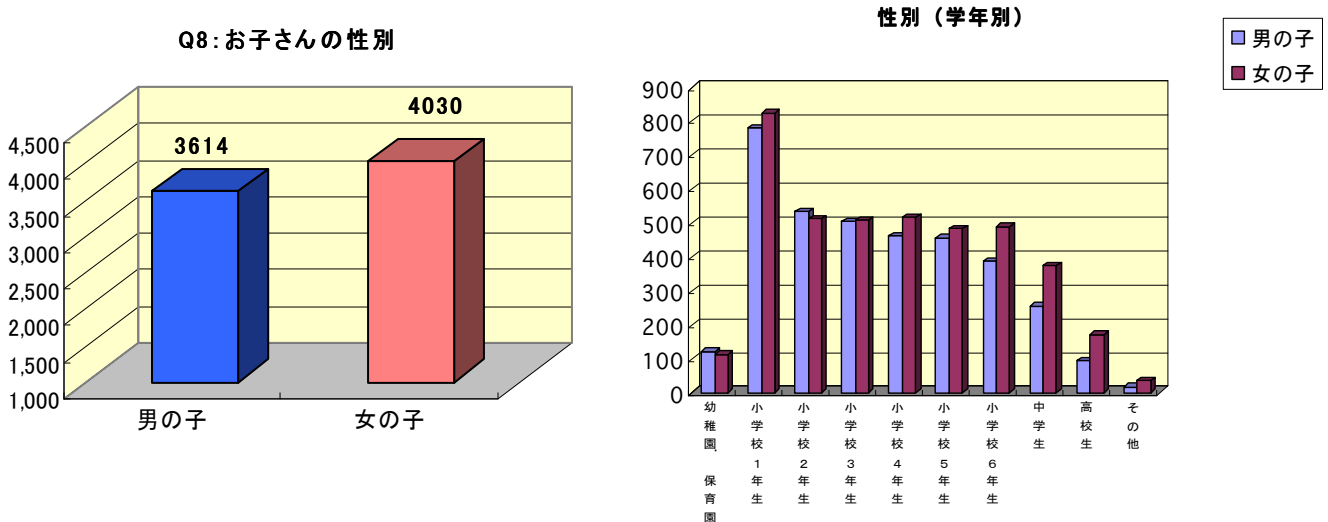
「子供自身にも防犯教室などで、実際におおきな声を出す練習をする。なかなか出ないものだと思います。なるべく男のかたも防犯対策への参加をお願いしたいです。せっかく女性のかたがボランティアで参加されていても注意を聞いてもらえなかったりすると思います。(小学生／山口県)」

「近所で不審者がでて警察官がパトロールをしていたなどの情報を後で聞くことが多い。知らないで子供を外で遊ばせてしまうことがあったので、リアルタイムな情報が欲しい(掲示板などに情報を載せるなど)。(小学生／神奈川県)」

「アメリカのように前科犯の所在を明らかにする。(小学生／愛知県)」

質問8: お子様の性別を教えてください。

回答をいただく際の対象となったお子さんの性別をおうかがいしたところ、全体を通して女子のほうが若干男子よりも多く、さらに6年生以上になると男女差が大きくなるという結果になりました。



質問9: お子様の学年を教えてください。

お子様の学年をおうかがいしたところ、小学1年生をお子様にもつ保護者からの回答数がかなり高い数値を記録。新入学を機に、安全へ高い関心を持たれている状況がわかります。

